

平成21年度

研 修 部 の 歩 み

研修部長 菅原 修（上杉山通小学校）

研修部は、本年度より宮城県と分離し、学校課題委員会と領域別研究委員会の2委員会を組織して独自の活動を推進してきている。

I 学校課題委員会

学校課題委員会は、仙台市独自の教育課題の究明や仙台市教育委員会の重点施策の推進にかかわる研修・研究を深めるために新しく立ち上げたものである。研究協議を通して、校長の学校経営能力を磨くため「仙台市小学校長会研究協議会」を新たに設けた。学校課題委員会はその企画・運営に携わっている。研修成果には、仙台市小学校長会から仙台市教育委員会への「提言」機能を持たせたいという願いもある。

【研究の推進】

学校運営上の様々な課題を把握するためにアンケート調査を実施し、結果の分析を通して「学校と地域との連携」を窓口校長の学校経営の在り方を探ることとした。

研究主題は、「開かれた、信頼される学校づくりと校長の在り方～学校と地域との連携を通して～」（仮）とし、「開かれた、信頼される学校づくり」を推進するに当たり、校長が抱える様々な課題を把握し、仙台市内及び全国の各学校における特色ある教育活動の実践事例を収集・分析するとともに、その結果を示し、校長の学校経営の在り方を探ることとした。

第1年次である本年度の研究協議会は、9月7日に学校課題に迫るための講演会・対談を実施した。国立教育政策研究所教育政策評価部長である葉養正明先生の講演や東北大学大学院教授小泉祥一先生との対談などから、「ねらいへの立ち戻り」「協力・支援から協働へ（パートナーシップをもって）」という主題に迫る重要なキーワードが明らかになった。

11月27日の校長会例会で全会員へ資料を配布し、研究の全体構想と経過報告を行うとともに、今後の予定に関する理解と協力を求めた。

II 領域別研究委員会

領域別研究委員会は、東北連小や全連小の研究協

議会の発表割当て分担について責任をもって研究提案をする役目を担っている。

【研究の推進】

仙台市小学校長会は、平成23年度に行われる全連小山形大会において「現職教育」について分科会で発表することになっている。

そこで、領域別研究委員会では本年度から「教職員の資質・能力と学校の教育力向上を図る現職教育と校長の在り方」を研究課題（予定）として取り組んでいる。

まず、現職教育の現状・実態を把握するため、部員を対象としてアンケート調査を実施した。

- ・現職教育の実践例
- ・校長としてのかかわり
- ・実践の効果や成果
- ・推進上の課題や問題点

アンケートの分析結果から、現職教育の傾向や研修日の設定、課題などが見えてきた。今後、教職員の意識改革のために、校長のかかわり方を探ることが必要である。アンケート調査等を通して、校長の苦労や創意工夫等について、さらに明らかにしていかなければならない。

このことについては、11月27日の校長会例会で経過報告を行い、全会員に理解と協力を求めた。

III 調査研究

全国連合小学校長会から依頼される調査については、本年度から研修部事務担当者（2名）が担当している。宮城県小学校数の4%を対象とした調査依頼を受け、仙台市小学校長会では、研修部2委員会所属の18名の校長に回答を依頼した。アンケートの集計・分析結果については、本年度「全連小紀要」に掲載される。

IV 研修部連絡協議会

宮城県小学校長会研修部と情報交換を行い、相互理解を深めるために、年間2回の予定で県の研修部との連絡協議会を行っている。お互いの推進状況を報告し、全連小や東北連小の動向を踏まえての対応等について協議して、共通理解を図っている。